



男性学からひもとく「社会」のカタチ



©大田区



こんなことを思ったことはありませんか？

- 妻より給料が低い夫は、どこか情けなく感じてしまう 
- 平日の昼間に男性が公園にいと、仕事をしていない、怪しい人に見える
- デートや食事のお金は、男性が負担すべきだ
- こどもの発熱や学校行事などで、仕事を休みたくても、男性は言い出しづらい雰囲気がある 

見えにくい

「男性の生きづらさ」

「男性学」という言葉を耳にしたことはありませんか。これは、社会の中に根付く「男らしさ」という縛りが、男性の生き方にどのような影響を与えているかを考える学問です。男性は、社会から「男らしい役割」を果たすよう期待されることも多く、その影響を受けながら日々の生活を送っている方

も少なくありません。今回は、男性特有の悩みや生きづらさについて、ジェンダーの視点から一緒に考えてみましょう。



「稼ぎ手」というプレッシャー

男女の労働時間を比較すると、依然として男性の方が長い傾向にあります。

仕事と私生活の両立に悩む人は少なくありません。こうした状況の背景には、男女の賃金格差という問題が潜んでいます。つまり、女性の賃金が低く抑えられがちな現状では、家計を維持するために「男性が頑張つて稼がなければならぬ」という責任とプレッシャーが生まれやすくなっています。

このような意識は、子育ての場面でも影響して